

「障害者の権利条約の実施と中国の市民社会」

日時 2013年11月2日(土)

午後1時—6時

会場 東京大学本郷キャンパス

経済学研究科棟地下1階 第一教室

入場無料

主催: 障害者の権利条約の実施過程に関する研究会 / 社会的障害の経済理論・実証研究 (REASE)

プログラム

13:00-13:05 開会の言葉 長瀬修(立命館大学)

13:05-14:55 「中国における障害者組織(DPO)の発展とその方向」

解岩(ワンプラスワン障害者文化開発センター) <中国語での報告(日中通訳)>

15:05-16:55 「中国における知的障害者の権利促進のための活動」

張巍(イネーブル障害学研究所) <中国語での報告(日中通訳)>

17:05-17:55 「北京融愛融楽知的障害者親の会」

李軍(融愛融楽) <日本語での報告>

17:55-18:00 閉会の言葉 松井彰彦(東京大学)

情報保障: 日本手話通訳、文字通訳、磁気ループ

車イスをご利用の方、介助者同伴の方、盲導犬同伴の方、
点字レジュメ、拡大文字レジュメ、磁気ループを
ご利用の方は、お申し込みの際に登録フォームにてお知らせください。

お問合せ: rease@e.u-tokyo.ac.jp

参加登録は <http://www.rease.e.u-tokyo.ac.jp/> よりREASE公開講座ページへ



社会的障害の研究から経済理論や社会の歪みをみつけ、経済学を考える

東京大学REASE(社会的障害の経済研究)では、前身のプロジェクトであるREAD(障害と経済)をさらに発展させるべく、人々の生きにくさに焦点を当てた様々なリサーチ・プログラムを展開しています。

今回の公開講座では、障害者の権利条約の実施の研究会と共に、中国の市民社会がどのように障害者の権利条約の実施に取り組んでいるのかを考えます。政府から独立した立場で活躍している、障害学の研究者、障害者組織のリーダー、知的障害者の親の会の方、合計3名を中国からお招きします。

多様な中国社会の一面を障害者の権利条約という視点から探る機会でもあります。

Research on Economy And Social Exclusion
社会的障害の経済理論・実証研究

<http://www.rease.e.u-tokyo.ac.jp/>